

教員名	佐藤 徹	所属学科	地域政策学科
【ゼミでは何を学ぶのか】 人口減少、少子・高齢化をはじめとする社会経済環境の変化が一層進む中、行政はいかにして市民ニーズに対応した政策を立案・実施すればよいのでしょうか。またどのように市民や民間セクターと協働しながら、地域に山積する種々の公共的問題の解決や公共サービスの提供を行えばよいのでしょうか。ゼミでは、まちづくりや政策的課題に対して、「理論」と「実践」の両面からアプローチしていきます。			
【どのように学ぶのか】 具体的な進め方は、ゼミ生と相談して決定しますが、以下に、標準的なスケジュールを示しておきます。 2年次後半 (プレゼミ) • 全員で基本書を輪読しながら、基礎的知識の修得をめざします(基本テキストの輪読、担当部分の発表・討議)。 • ゼミ生どうしの親睦や交流を深めます。 3年次 (リサーチ・プロジェクト) • ゼミ共通の研究テーマを設定し、ゼミ生が協力し合い、リサーチ・プロジェクトに取り組みます。 • 具体的には、各種の調査研究(文献調査、アンケート調査、インタビュー調査等)を通じて、大学における研究の進め方、政策の分析手法などを体得するように努めます。 4年次 (卒業研究) • 3年次の研究成果をもとに調査研究を進め、卒業論文を完成させます。 • 具体的には、リサーチ・プロジェクトで得られた研究成果を最大限生かし、自らの関心に沿った研究テーマのもと、地域や政策分野を限定したケーススタディなどを行うことによって、各自が卒業論文を作成していきます。 その他、現職の県庁職員・市職員、元首長を招いての座談会(自治体職員の魅力、公務員試験対策など)や夏合宿、自治体との共同研究、フィールドワークなどにも積極的に取り組んでいます。			
【学んだことはどのように生かせるのか】 国や自治体の行政職員になったときに役立つ知識やスキルを養成しています。くわえて、主体性、協調性、議論する力、プレゼンテーション能力を磨いていきます。 【卒業生の主な進路】 1. 公務員 国会公務員(本省、地方)、群馬県庁、神奈川県庁、茨城県庁、福島県庁、北海道庁、東京都特別区(板橋区、豊島区)、高崎市、静岡市、新潟市、長野市、上越市、安中市、富岡市、伊勢崎市、飯田市、那須塩原市、小諸市、寒河江市、北海道当別町、福島県桑折町、長野県南箕輪村、群馬県甘楽町、警視庁、群馬県警、石川県警、群馬県(学校事務)など 2. 民間企業			

三菱UFJ証券、東京電力、ロッテ、積水ハイム、JR東日本、JR西日本、群馬銀行、山形銀行、みちのく銀行、その他地銀多数

3. 進学

高崎経済大学大学院地域政策研究科

【おすすめの入門書・基本テキスト】

特に基本テキストなどは掲げませんが、ふだんから新聞やニュース番組などを通じて、行政や政策に関心を持ってほしいと思います。

【まだ見ぬ君へのメッセージ】

本ゼミでは、行政学や政策科学の理論のみならず、実践にもとづく生きた研究を目指しています。世間一般の見方やマスコミの論調に対し、自分の意見をしっかりと提起できる主体性のある“元気のよい”学生を望みます。自治体行政の政策担当者としての種々の経験や、現在関わっている国や地方自治体での政策過程のこぼれ話についてもお話したいと思います。安定志向とかではなく、とにかく、都道府県や市町村などの自治体職員になり、住民のために地域やまちを良くしたいという情熱のある人は、ぜひ我がゼミの門をたたいてみてください！